

2023年度 第1回九大本番レベル模試(教法経) 国語 採点基準

☆二・三の現代文の配点は、「内容点」(ABC・・・)と「構造点」(XYZ・・・)で構成されます。また、内容点は各条件内に要素(①②③・・・)が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

一 (評論) 採点基準 (合計≪60点)

問1 11点

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇1点 A③〇1点 A④〇1点

人間の欲望には、主体と対象と、同時に媒体が関与して、三重の関係をなし、へA4点

B〇3点

主体はその欲望を対象への嗜好や関心によるものとするが、へB3点

C①〇1点 C②〇2点

実は媒介者の欲望を、模倣した結果に過ぎないと見なせるから、へC3点

X〈逆説〉→A・B・Cのうち、2要素以上に〇↓+1点

(内容【10点】+構造【1点】≪11点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「理由」を説明すべく、ジラールによる「欲望」の端的な説明であるAを、B、Cの

〈矛盾〉する二要素——Bは譲歩的な内容、Cが説明の本体——に引き裂いて説明する〈逆説≪矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、条件B、Cの要素〉内の二種二つ以上があれば

この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈逆説≪矛盾を含むこと〉 へAの要素、条件B、Cの要素の内の二種二つ以上 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせ、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「人間の欲望には主体と対象と同時に媒体が関与して三重の関係をなし」へ4点

※ 傍線部を説明するための、ジラールによる「欲望」の端的な説明の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点

① 「人間の欲望には」の要素。(1点)

✖ 「人間の欲望」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「主体と対象と」の要素。(1点)

○ 「主体としての私と対象と」「主体と客体と」などでも可。

✖ 「主体と対象」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③ 「同時に媒体が関与して」の要素。(1点)

○ 「のみならず媒体も存在して」「媒介者も関わって」などでも可。

✕ 「媒体の関与」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

④ 「三重の関係をなし、」の要素。(1点)

○ 「三角構図をなし、」「三重関係を構成し、」などでも可。

✕ 「三重の関係」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「主体はその欲望を対象への嗜好や関心によるものとするが、」〈3点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく譲歩的な条件。

○ 「主体は自らの欲望を客体への好みや関心によるものとするが、」「主体はその欲求を対象へと向う嗜好や興味によるものとするが、」などでも可。

▲ ① 「主体の欲望」② 「対象」③ 「嗜好」関心(どちらかに相当するものがあればよい)のニュアンスの三成分が必要。1つ欠ける毎に▲1点減点。

C 「実は媒介者の欲望を模倣した結果に過ぎないと見なせるから。」〈3点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく、Bとは矛盾する本体的な条件。

① 「実は媒介者の欲望を」の要素。(1点)

○ 「実際は媒介者の欲望を」「本当は媒介者の欲求を」などでも可。

✕ 「媒介者の欲望」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「模倣した結果に過ぎないと見なせるから。」の要素。(2点)

○ 「真似ただけに過ぎないと判断できるから。」「繰り返した結果だと思えるから。」などでも可。

▲ ① 「模倣」② 「見なせる」のニュアンスの二成分が必要。1つ欠けている場合▲1点減点。

問2 8点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○2点

〈A4点〉

宣伝広告の氾濫する現代において、

私たちの欲望が

その対象の使用者への憧れに基づいていたり、

B①○2点

B②○1点

人生にとって重要な、志望校、恋愛相手の選択等が

他者の欲望に従ったものと見えるとき。〈B3点〉

X 〈分析〳分けること〉 ↓ A・Bの両方の要素に〇 ↓ +1点

(内容【7点】 + 構造【1点】 = 8点)

【構造点】

☆ Xは、傍線部の「とき」を、A、Bの〈矛盾〉しない具体的な二条件に〈分析〳分けること〉して説明してゆく構造への評価である。この場合は、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X 〈分析〳分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「宣伝広告の氾濫する現代において、私たちの欲望がその対象の利用者への憧れに基づいていたり、」(4点)

※ 傍線部の「とき」を具体的に説明する「宣伝広告の氾濫する現代」の側の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点

① 「宣伝広告の氾濫する現代において、」の要素。(1点)

○ 「コマーシャルの氾濫する今、」「宣伝広告で充満させられた現代において、」などでも可。

× 「宣伝広告の氾濫する現代」のニュアンスの成分が入っていないと×。

② 「私たちの欲望が」の要素。(1点)

○ 「我々の欲望が」「私たちの欲求が」などでも可。

× 「(私たちの)欲望」のニュアンスの成分が入っていなければ×。

③ 「その対象の利用者への憧れに基づいていたり、」の要素。(2点)

○ 「その客体の利用者への憧憬から発していたり、」「その対象利用者への憧れに根拠が求められたり、」などでも可。

▲ 「対象の利用者」「憧れに基づく」のニュアンスの二成分が必要。1つ欠けている場合▲1点減点。

B 「人生にとって重要な、志望校、恋愛対象の選択等が他者の欲望に従ったものと見えるとき。」(2点)

※ 傍線部の「とき」を具体的に説明する「人生にとって重要なもの」の側の条件。

① 「人生にとって重要な、志望校、恋愛対象の選択等が」の要素。(2点)

○ 「人生において大切な、志望校、職業、居住地などの選択が」「人生で軽視できない、職業、恋愛対象などの選択が」などでも可。

▲ 「人生にとって重要」「志望校or職業or居住地or恋愛対象(どれか一つがあればよい)の選択」の二成分の二成分が必要。1つ欠ける場合▲1点減点。

② 「他者の欲望に従ったものと見えるとき。」の要素。(1点)

○ 「他者の欲望を模倣したものと見えるとき。」「誰かの欲望にならったものと見えるとき。」などでも可。

× 「他者の欲望に従ったものと見える」のニュアンス成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇2点

A②〇1点

媒体と主体の願望可能圏が離れている「外的媒介」ではなく、多少とも重なり合う「内的媒介」では、〈A3点〉

B①〇1点 B②〇2点

模倣を通して、一見相手と通じる友好・友情の要素が得られるかのように見えて、〈B3点〉

C①〇2点

C②〇1点

C③〇1点

実は互いが欲望実現のための「障害」となり、対立や軋轢の関係に入って、憎悪、嫉妬、敵意等を生むと

考えるから。〈C4点〉

X〈逆説〉ABCの2つ以上に〇↓1点

(内容【10点】+構造【1点】=11点)

【構造点】

Xは、傍線部の理由を説明すべく、「外的媒介」と異なる「内的媒介」の条件であるAを、〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明する〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈逆説=矛盾を含むこと〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点(の採点のポイント)は以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「媒体と主体の願望可能圏が離れている『外的媒介』ではなく、多少とも重なり合う『内的媒介』では、」〈3点〉

※ 傍線部の理由説明をするための、「外的媒介」ならぬ「内的媒介」の条件。

①「媒体と主体の願望可能圏が離れている『外的媒介』ではなく、」の要素。(2点)

○「媒介者と主体の願望可能圏が重ならない『外的媒介』ではなく、」弟子とモデルの願望可能圏が乖離した『外的媒介』ではなく、」などでも可。

✖「媒体と主体の願望可能圏が離れている『外的媒介』の否定のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

▲「媒体と主体の願望可能圏」の要素が欠けている場合、▲1点減点。

②「多少とも重なり合う『内的媒介』では、」の要素。(1点)

○「ある程度それぞれの圏が重複する『内的媒介』では、」多かれ少なかれ両者が重なり合う『内的媒介』では、」などでも可。

✖「(多少とも) 重なり合う『内的媒介』のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B「模倣を通して、一見相手と通じる友好・友情の要素が得られるかのように見えて、」〈3点〉

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明する一方の条件。

①「模倣を通して、」の要素。(1点)

○「模倣を媒介にして、」模倣によって」などでも可。

✖「模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「一見相手と通じる友好・友情の要素が得られるかのように見えて、」の要素。(2点)

○「一見すると共有しうる友好関係に入る要素が得られるようにみえながら、」
「外見上は共にしうる友情を交わす要素が得られるように思えるが、」などでも可。

※「一見相手と通じる 友好 or 友情(どちらかがあればよい)の要素が得られるように見える」のニュアンスの成分が入っていること。

▲ただし、「一見相手と通じる」のニュアンスが欠けている場合▲1点減点で△1点。

C「実は互いが欲望実現のための『障害』となり、対立や軋轢の関係に入って、憎悪、嫉妬、敵意等を生むと考えるから。」へ4点

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明するための、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。

①「実は互いが欲望実現のための『障害』となり、」の要素。(2点)

○「実際は相互に対象を巡って『障害』となり、」「現実にはお互いに欲望実現のための邪魔となり、」などでも可。

※「互いに欲望実現(対象を巡る)の障害」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

▲ただし、「互いに」の要素ヌケの場合は▲1点減点で△1点

②「対立や軋轢の関係に入って、」の要素。(1点)

○「対立関係に入って、」「軋轢を抱えた関係に入り、」などでも可。

※「対立 or 軋轢(どちらかに相当するものがあればよい)の関係」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

③「憎悪、嫉妬、敵意等を生むと考えるから。」の要素。(1点)

○「憎悪、恨み、嫉妬などを生むと思われるから。」「嫉妬、羨望、敵意等を引き起こすと考えられるから。」などでも可。

※「憎悪 or 恨み or 嫉妬 or 羨望 or 敵意(どれかが入っていればよい)を生む」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

(模範解答例)

A〇1点

内的媒介の関係では、〈A 1点〉

B〇1点

主体が媒介者の欲望を模倣したように、〈B 1点〉

C〇1点

媒介者も主体の欲望を模倣して、〈C 1点〉

D①〇3点

X〈分析〉ABCのうち2つ以上に〇↓+1点

D②〇1点

その結果対立が強化されること。〈D 4点〉

Y〈総合〉Dに〇↓+1点

〔内容【7点】+構造【2点】〕=9点

【構造点】

☆ Xは、傍線部の説明をすべく、話題のAを〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉して説明する構造への評価である。→向きが反対である所に〈矛盾〉をみて〈逆説〓矛盾を含むこと〉と解釈することもできる。ここでは、条件A、B、Cの内の二つがあればこの構造が暗黙裡に構想されているとみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 〈A、B、C〉の内の二つ以上 〇1点

・ Yは、B、CをDにまとめて結論づける〈総合〓まとめること〉の構造への評価である。ここでは条件Dの要素が一つ以上あればこの構造が暗黙裡に構想されたとみなして1点加算。

Y〈総合〓まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「内的媒介の関係では、」〈1点〉

※傍線部の説明をするための話題の条件。

✖ 「内的媒介」の成分が入っていないければ✖。

B 「主体が媒介者の欲望を模倣したように、」〈1点〉

※傍線部の説明をすべく、Aを説明する一方の条件。

○ 「主体が媒体の欲望を模倣したことく、」 「弟子がモデルの欲望を模倣したように、」 などでも可。

✖ 「主体が媒介者の欲望を模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C 「媒介者も主体の欲望を模倣して、」〈1点〉

※傍線部の説明をすべく、Aを説明する他方の条件。

○ 「媒体も主体の欲望を模倣して、」 「モデルも弟子の欲望を模倣して、」 などでも可。

✖ 「媒介者も主体の欲望を模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

D 「互いに循環するように欲望が強化されて激烈な情熱を生み、その結果対立が強化されること。」〈2点〉

※B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「互いに循環するように欲望が強化されて激烈な情熱を生み、」の要素。(1点)

○ 「相互に循環して欲望が強さを増して激しい情熱をもたらし」、「交互に繰り返されて欲求が強化され、猛烈な情熱を掻き立て、」などでも可。

▲(1)「互いに」循環する(2)「欲望の強化」(3)「激烈な情熱」のニュアンスの三成分が入って○。1つ成分が欠ける毎に▲1点減点。

②「その結果対立が強化されること。」の要素。(1点)

○ 「結果的に葛藤が強化されること。」「軋轢の激化をもたらすこと。」などでも可。

✖ 「対立の強化」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問5 12点

(模範解答例)

A ①○1点 A ②○1点

模倣が 反響、連鎖、相互影響し合う状態になると、(A 2点)

B ①○2点

B ②○2点

(B 4点)

主体(弟子)とモデルという立場上の違いが消滅し、誰のものともつかない欲望に身を委ねる両者がいるだけで、

C ①○1点

C ②○1点

C ③○1点

D ○1点

同一化の中で 敵対者たちは 互いの分身となつていへば、とどろきだしている。(C 4点)

X (分析) A B C の 2 種 2 つ 以上 に ○ ↓ 1 点

Y (総合) D に ○ ↓ 1 点

(内容【10点】+構造【2点】=12点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の筆者による捉え方を説明すべく、前提条件のAを、(因果関係)をなす(矛盾)しない二条件B、Cに(分析)分けることとして説明してゆく構造への評価である。ここでは、A、B、Cの要素が二種二つ以上あれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているものとみなして1点加点。

X (分析)分けること() (Aの要素、Bの要素、Cの要素)の内の二種二つ以上 ○1点

・Yは、B、Cを筆者の捉え方としてDに(総合)まとめることとして結論づける構造への評価である。ここでは条件Dがあれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているものとみなして1点加点。

Y (総合)まとめること() D ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「模倣が反響、連鎖、相互影響し合う状態になると、」(2点)

※傍線部の筆者の捉え方を説明するための前提条件。

①「模倣」の要素。(1点)

✖ 「模倣」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「反響、連鎖、相互影響し合う状態になると、」の要素。(1点)

○ 「反響、相互影響する状況になると、」「連鎖、相互影響の状態に入ると、」などでも可○。

✖ 「反響 or 連鎖 or 相互影響(どれか一つがあればよい)」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B 「主体（弟子）とモデル」という立場上の違いが消滅し、誰のものともつかない欲望に身を委ねる両者がいるだけで、」〈4点〉

※傍線部の筆者の捉え方を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈因〉の条件。

①「主体（弟子）とモデル」という立場上の違いが消滅し、」の要素。（2点）

○「主体と媒体という立場の違いがなくなり、」「弟子とモデル」という立場上の相違が消えてしまい、」などでも可○。

×「主体（弟子）とモデルの立場上の違いの消滅」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

△ただし、「主体（弟子）とモデルの」の成分が抜けて「立場上の違いの消滅」のニュアンスのみの場合は

▲1点減点で△1点。

②「誰のものともつかない欲望に身を委ねる両者がいるだけで、」の要素。（2点）

○「誰のものか特定できない欲望に身を任せる両者が存在するだけで、」「誰のものとも知れぬ欲望に流される二人がいるだけで、」などでも可○。

△「誰のものともつかない欲望」「身を委ねる両者がいる」のどちらかのニュアンスが抜けている場合、

▲1点減点で△1点。

C 「同一化の中で敵対者たちは互いの分身となっていく」〈3点〉

傍線部の筆者の捉え方を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈果〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点（3点）内で、得点があれば要素点+1点（2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点。）

①「同一化の中で」の要素。（1点）

○「同一性が完成されたとき、」「同一化の過程を経て」などでも可○。

×「同一化」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「敵対者たちは」の要素。（1点）

×「敵対者」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③「互いの分身となっていく」の要素。（1点）

○「分身になってしまふ」「相互に分身と化す」などでも可○。

×「分身となる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

D 「とらえている」。」「〈1点〉

※B、Cをまとめて筆者の捉え方へと結論づけていく条件。

○「と把握している。」「と判断している。」「などでも可○。

×「とらえている」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

ジラールの言うように、

共同体内で特定個人に暴力を集中して

スケープゴートにするのではなく、〈A 3点〉

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

B④〇2点

暴力の根本因である

「同一化」を回避し、

差異を回復するために

意識的に新しい「自己同一性」を

獲得してゆくこと。〈B 5点〉

X 〈分析〉 AとBに〇↓1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、〈notP～butQ〉の構文を形成する〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉して説明していく構造への評価である——〈notP～butQ〉の構文は例えば〈女じゃないよ、男だよ〉のように、〈否定(not)〉の成分が入ることによって、〈矛盾〉を排除して、〈女じゃない〉≠〈男だよ〉のように二要素間に〈分析〓分けること〉する構造を作り出す——。ここではA、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「ジラールの言うように、共同体内で特定個人に暴力を集中してスケープゴートにするのではなく、」〈3点〉

※傍線部を、〈notP～butQ〉の構文で説明してゆく〈notP〉の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点(2要素以上があれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていなければ0点。)

①「ジラールの言うように、」の要素。(1点)

※「ジラール」の成分が入っていなければ✕。

②「共同体内で特定個人に暴力を集中して」の要素。(1点)

○「コミュニティ内で標的とされた個人に暴力を集中し」「共同体の中の一定個人に暴力を焦点化し」などでも可○。

※「共同体内の特定個人に暴力を集中」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

③「スケープゴートにするのではなく、」の要素。(1点)

○「贖いの山羊とするのではなく」「供犠の対象とするのではなく」などでも可○。

※「スケープゴートの否定」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

B 「暴力の根本因である『同一化』を回避し、差異を回復するために意識的に新しい「自己同一性」を獲得してゆくこと。」〈5点〉

※傍線部を、〈notP～butQ〉の構文で説明してゆく〈butQ〉の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点

- ① 「暴力の根本因である」の要素。(1点)
 - 「暴力がそこから生まれる」「暴力の根源である」などでも可○。
 - × 「暴力の根本因」のニュアンスの成分が入っていないならば×。
- ② 『同一化』を回避し、「」の要素。(1点)
 - 『同一化』を排除し、「『同一性』を求めず」などでも可○。
 - × 『同一化』の回避」のニュアンスの成分が入っていないならば×。
- ③ 「差異を回復するために」の要素。(1点)
 - 「相違を復活させるために」「差異を取り戻すために」などでも可○。
 - × 「差異の回復」のニュアンスの成分が入っていないならば×。
- ④ 「意識的に新しい『自己同一性』を獲得してゆくこと。」の要素。(2点)
 - 「意識的新たな『自己同一性』を生み出してゆくこと。」「意識的に新しい『アイデンティティ』を創りだしてゆくこと。」などでも可○。
 - 「意識的」「新しい『自己同一性』の獲得」のニュアンスの二成分が入っていて○。
 - ▲ 「意識的」の成分が抜けている場合▲1点減点で△1点

□ 現代文（評論）採点基準（合計60点）

問1 8点

（模範解答例）

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

フアッションを

「モード」等のモデルで理解すると

必要不可欠な活動とは言えないが、〈A3点〉

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

B④〇1点

誰もが

何らかのモノを身に纏っていると考えれば、

フアッションから

逃れられる者はいないから。〈B4点〉

X〈逆接〉AとBに〇↓1点

〔内容〕【7点】＋構造【1点】＝8点

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由を、〈譲歩―逆接構文〉をなす〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する〈逆説⇨矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説⇨矛盾を含むこと〉

〈Aの要素、Bの要素〉の内の二種二つ以上

〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「フアッションを『モード』等のモデルで理解すると必要不可欠な活動とは言えないが、」〈3点〉

※ 傍線部の理由説明をするための〈譲歩〉の条件。

満点（3点）内で、得点があれば要素点＋1点。2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点

① 「フアッションを」の要素。（1点）

※ 「フアッション」の成分が入っていないければ✕。

② 『モード』等のモデルで理解すると」の要素。（1点）

○ 『ハイ・フアッション』などのモデルで理解しているかぎり、「『ハイ・フアッション』『モード』という概念で理解していると」などでも可○。

※ 『ハイ・フアッション』or『モード』のモデルで理解」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③ 「必要不可欠な活動とは言えないが、」の要素。（1点）

○ 「欠くことの出来ない活動とは言えないが」「必ずしも必要な活動とは言えないが、」などでも可○。
✕ 「必要不可欠な活動」の否定ニュアンスの成分が入っていないければ✕。

B 「誰もが何らかのモノを身に纏っていると考えれば、フアッションから逃れられる者はいないから。」〈4点〉

※ 傍線部の理由説をするための、Aを否定する条件。

満点（4点）内で、得点があれば要素点＋1点。3素以上あれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点

①「誰もが」の要素。(1点)

✖ 「誰もが」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「何らかのモノを身に纏っていると考えると考えれば、」の要素。(1点)

○ 「何らかのモノを身に付けていると考えると、」「何かを身に纏っていると考えるかぎり、」などでも可○。

✖ 「何らかのモノを身に纏っている」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③「ファッションから」の要素。(1点)

✖ 「ファッションから」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④「逃れられる者はいないから。」の要素。(1点)

○ 「誰も逃れることはできないから。」「逃れられる者などいないから。」などでも可○。

✖ 「逃れられる者」の否定のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問2 10点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

ファッションとは

自己が見られる存在」として現れる

現れ方のことだが、

B①○1点 B②○1点

自分は 常に誰かに見られる対象として存在し、

C①○1点

C②○1点

C③○1点

したがってファッションは 限定された領域ではなく、

全ての主体に入り込んだ

C④○1点

「力」「宿命」のようなものである」と。

〈C4点〉

X〈分析〉ABCのうち2つ以上に○↓1点

〈内容【9点】+構造【1点】=10点〉

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、前提条件であるAを、〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉として説明する構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているときみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉

〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「ファッションとは自己が『見られる存在』として現れる現れ方のことだが、」〈3点〉

※ 傍線部を説明するための前提である、「ファッション」の定義の条件。

満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。2要素あれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点

①「ファッションとは」の要素。(1点)

✖ 「ファッション」の成分が入っていないければ✖。

②「自己が『見られる存在』として現れる」の要素。(1点)

- 「自分が『見られる存在』となる」「自己が『見られる存在』として浮上する」などでも可○。
- ×「自己が『見られる存在』として現れる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。
- ×「見られる存在」がなければ不可×。

③「現れ方のことだが、」の要素。(1点)

- ×「現れ方」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B「自分は常に誰かに見られる対象として存在し、」(2点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈因〉の条件。

①「自分は」の要素。(1点)

- ×「自分」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「常に誰かに見られる対象として存在し、」の要素。(1点)

- 「いつも他者に見られ存在としてあり、」常時誰かから見られる客体として自分が存在し、」などでも可。
- ×「常に誰かに見られる対象として存在」のニュアンスの成分が入っていないければ×。「常に」というニュアンスがない場合は不可×。

C「したがってファクションは限定された領域ではなく、全ての主体に入り込んだ「力」、「宿命」のようなものであること。」(4点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈果〉の条件。

満点(4点)内、得点があれば要素点+1点。3要素であれば4点、2要素であれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点

①「したがってファクションは」の要素。(1点)

- ×「ファクション」の成分が入っていないければ×。

②「限定された領域ではなく、」の要素。(1点)

- 「限られた領分ではなく、」限定された次元の出来事ではなく、」などでも可○。
- ×「限定された領域」の否定ニュアンスの成分が入っていないければ×

③「全ての主体に入り込んだ」の要素。(1点)

- 「あらゆる主体に組み込まれた」「主体に例外なくしみこんでいる」などでも可○。
- ×「全ての主体に入り込んだ」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④「『力』、『宿命』のようなものである」と。「」の要素。(1点)

- 「『力』とも言えるものである」と。「」『宿命』とも捉えられる」と。」などでも可。
- ×「『力』 or 『宿命』」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A ○1点

『モードの体系』でバルトが、〈A 1点〉

B ○1点

B ②○1点 B ③○1点

ファッションを巡る言説を 対象として 眺めるのではなく、〈B 3点〉

C ①○1点

C ②○1点

C ③○1点

C ④○1点

それらの記号論的分析をし、また記号論的分析が いかなる言語実践で ありうるかを示していること。〈C 4点〉

X 〈分析〉A・B・Cの要素のうち2つ以上に○↓+1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、〈話題と主体明示〉の条件Aを、〈notP～butQ〉の構文を構成する〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析し分けること〉としてゆく構造への評価である。ここでは、〈条件A、条件Bの要素、条件Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析し分けること〉 条件A、条件Bの要素、条件Cの要素の内の二種二つ以上 ○1点

X 〈分析し分けること〉 条件A、条件Bの要素、条件Cの要素の内の二種二つ以上 ○1点

X 〈分析し分けること〉 条件A、条件Bの要素、条件Cの要素の内の二種二つ以上 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 『モードの体系』でバルトが、「〈1点〉

※ 傍線部を説明するための、〈話題と主体明示〉の条件。

※ 『モードの体系』「バルト」の二成分が入っていないければ×。

B 「ファッションを巡る言説を対象として眺めるのではなく」〈3点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを〈notP～butQ〉の構文で説明する〈notP〉の条件。

満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「ファッションを巡る言説を」の要素。(1点)

○ 「ファッションに関わる言説を」「ファッション言説を」などでも可。

※ 「ファッション言説」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「対象として」の要素。(1点)

※ 「対象」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「眺めるのではなく」の要素。(1点)

※ 「眺める」の否定ニュアンスの成分が入っていないければ×。

C「それらの記号論的分析をし、また記号論的分析がいかなる言語実践でありうるかを示していること。」〈4点

※傍線部を説明すべく、Aを〈notP-butQ〉の構文で説明する〈butQ〉の条件。

以下の四要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素で3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「それらの記号論的分析をし」の要素。(1点)

○「それらを記号論的に分析し」「それらを記号論的分析にかけ」などでも可。

✖「それら(＝ファクション言説)の記号論的分析」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「また記号論的分析が」の要素。(1点)

✖「記号論的分析」の成分が入っていないければ✖。

③「いかなる言語実践で」の要素。(1点)

○「どのような言語的实践で」「どのような言語上の実践で」などで○。

✖「いかなる言語実践」の成分が入っていないければ✖。

④「ありうるかを示していること。」の要素(1点)

○「可能性を示していること。」「ありうるかを開示していること。」などでも可。

✖「可能性の明示」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問4 11点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

二十世紀の哲学者・思想家の思考の中に

ファクションについて語るための

ヒントを得ようとする試みが

あるもの。〈A3点

B①○1点

B②○1点

B③○1点

B④○1点

B⑤○1点

ファクションなど

研究に値しないと断ずる

アカデリズムが

支配的であり、

その知的活動がすでに

死に瀕している。〈B5点

X〈逆説〉A B 2要素に○↓+1点

状況。〈C1点

Y〈総合〉Cに○↓+1点

【内容】9点 + 構造【2点】 = 11点

【構造点】

☆Xは、傍線部の「状況」を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する〈逆説＝矛盾を含むこと〉の構造への評価である。

ここでは、Aの要素とBの要素がそれぞれ一つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈逆説＝矛盾を含むこと〉 A要素+Bの要素 ○1点

☆Yは、条件A、BをC(＝「状況」)に〈総合＝まとめること〉する構造への評価である。ここではCがあればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈総合＝まとめること〉 C ○1点

◎採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「二十世紀の哲学者・思想家の思考の中にファッションについて語るためのヒントを得ようとする試みがあるものの」〈3点〉

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点。要素が入っていないければ0点。

① 「二十世紀の哲学者・思想家の思考の中に」の要素。(1点)

○ 「二十世紀の哲学者などの思考に」「二十世紀の思想家などの思考中に」などでも可。

× 「二十世紀の哲学者 or 思想家などの思考」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

× 「二十世紀」が無い場合不可×。

② 「ファッションについて語るための」の要素。(1点)

○ 「ファッションに言及するための」「ファッションを取り上げて語るための」などでも可。

× 「ファッションについて語る」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「ヒントを得ようとする試みがあるものの」の要素。(1点)

○ 「ヒントを引き出そうとする試行があるものの」「理論的な道具を探ろうとする試みがあるが、」などでも可。

× 「ヒント or 理論的道具を得ようとする試み」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「ファッションなど研究に値しないと一蹴するアカデリズムが支配的であり、その知的活動がすでに死に瀕している」〈5点〉

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

以下の5要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点。4要素以上があれば5点、3要素あれば4点、2要素あれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「ファッションなど」の要素。(1点)

× 「ファッション」(を否定的に見る)のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「研究に値しないと一蹴する」の要素。(1点)

○ 「研究する価値がないと退ける」「研究する意味がないと捨て去る」などでも可。

× 「研究に値しないと一蹴」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「アカデリズムが」の要素。(1点)

× 「アカデリズム」の成分が入っていないければ×。

④ 「支配的であり、」の要素。(1点)

× 「支配的」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

⑤ 「その知的活動がすでに死に瀕している」の要素。(1点)

○ 「その知的な営為がすでに死んでいる」「その知的な活動が既に死んだも同然の」などで○。
× 「知的活動の死」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「状況。」〈1点〉

※ A、Bをまとめる条件。

※ 「状況」に相当するニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問5 11点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

A③○1点

A④○1点

近代の ドイツ観念論から構造主義

現代の思弁的唯物論等も

さらにシンギュラリティ等を

A⑤○1点

巡る思想も

思想上のフアッションであり、〈A5点〉

B①○1点

B②○1点

B③○1点

そこでも

強力な思想のモードに 乗りたいという欲望と、〈B3点〉

C①○1点

C②○1点

そこから逸脱しまじう身体との 葛藤が存在するといふこと。〈C2点〉

X〈逆説〉ABCの2種以上に○↓+1点

〔内容〕【10点】+構造【1点】=11点

【構造点】

☆Xは、・Xは、傍線部を説明すべく、話題のAを、B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明してゆく〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとなして1点加算。

X〈逆説=矛盾を含むこと〉 〈A、B、Cの要素〉の要件の内の二種二つ以上 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「近代のドイツ観念論から構造主義、現代の思弁的唯物論等の、さらにシンギュラリティ等を巡る思想も思想上のフアッションであり、」〈5点〉

※ 傍線部を説明するための話題の条件。

以下の**5要素に分けて採点**。**満点(5点)内**で、**得点があれば要素点+1点**。**4要素以上があれば5点**。**3要素あれば4点**、**2要素あれば3点**、**1要素であれば2点**、**要素が入っていないければ0点**。

① 「近代」の要素。(1点)

✖ 「近代」の成分が入っていないければ✖。

② 「ドイツ観念論から構造主義」の要素。(1点)

○ 「ドイツ観念論からポスト構造主義」「マルクス主義や精神分析など」などでも可。

✖ 「ドイツ観念論、マルクス主義、精神分析、構造主義、ポスト構造主義」の内一つも入っていないければ✖。

③ 「現代の思弁的唯物論等も」の要素。(1点)

✖ 「現代の思弁的唯物論」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④ 「さらにシンギュラリティ等を巡る思想も」の要素。(1点)

○ 「シンギュラリティに関わる思想も」「人工知能をめぐる思想も」などでも可。

× 「シンギュラリティ or 人工知能をめぐる思想」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

⑤ 「思想上のファッションであり、」の要素。(1点)

○ 「思想の次元におけるファッションであり、」思想的なファッションであり、」などでも可。

× 「思想上のファッション」のニュアンスの成分が入っていないければ×。「ファッション」だけでは×。

B 「そこでも強力な思想のモードに乗りたい欲望と、」〈3点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明する一方の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「そこでも(＝思想上のファッションでも)」の要素。(1点)

× 「そこでも(＝思想上のファッションでも)」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「強力な思想のモードに」の要素。(1点)

○ 「力のある思想の流行に」「有力な思想の流儀に」などでも可。

× 「強力な思想のモード」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「乗りたい欲望と、」の要素。(1点)

○ 「帰属したいという欲望と、」「あやかりたいという欲望と」などでも可。

× 「乗りたい欲望」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「そこから逸脱してしまう身体との葛藤が存在するということ。」「〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明する、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「そこから逸脱してしまう身体との」の要素。(1点)

○ 「その思想のモードから外れてしまう身体との」「そこからはみだしてしまう身体との」などでも可。

× 「そこから逸脱してしまふ身体」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「葛藤が存在するということ。」「の要素。(1点)

○ 「葛藤があること。」「ディレンマが存在すること。」「などでも可。

× 「葛藤の存在」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

市場原理と技術的効率化が支配しており、

そのシステムへの最適化が

ファッショナブルなこととして

A④○1点

至上命令となり、

B①○1点

B②○1点

ファッションと身体の葛藤は

隠蔽されて

C①○1点

C②○1点

画一化が進行し、皆が同じようにスマホを操作し同じような情報を交換する

X〈分析〉ABCの2種以上に○↓+1点

D○

社会環境。へ1点

Y〈総合〉Dに○↓+1点

(内容【9点】+構造【2点】=11点)

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明するための前提条件のAを、〈因果関係〉をなす〈矛盾しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉して説明する構造を形成する。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立している」とみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種二つ以上 ○1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは、Dの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立している」とみなして1点加算。

Y〈総合〓まとめること〉 Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「市場原理と技術的効率化が支配しており、そのシステムへの最適化がファッショナブルなこととして至上命令となり、」(4点)

※ 傍線部を説明するための前提条件。

以下の四要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素で3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①「市場原理と技術的効率化が支配しており、」の要素。(1点)

○「市場の原理と技術上の効率化が支配的であり、」「市場原理と技術的効率化がコントロールしており、」などでも可。

✕「市場原理と技術的効率化の支配」のニュアンス成分が入っていないければ✕。

②「そのシステムへの最適化」の要素。(1点)

○「そのシステムに最もよく適応することが」「そのシステムに対し最適にすることが」などでも可。
✕「最適化」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③ 「ファッションナブルなこととして」の要素。(1点)

- 「ファッションナブルであるとして」「流行に見合ったこととして」などでも可。
- ✖ 「ファッションナブル」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④ 「至上命令となり、」の要素。(1点)

- 「至上命令とされ、」「絶対的命令となり、」などでも可。
- ✖ 「至上命令」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B 「ファッションと身体の葛藤は隠蔽されて」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈因〉の条件。

① 「ファッションと身体の葛藤は」の要素。(1点)

- 「ファッションと身体の齟齬は」「ファッションと身体の矛盾は」などでも可。
- ✖ 「ファッションと身体の葛藤」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「隠蔽されて」の要素。(1点)

- 「背後に追いやられて」「覆い隠されて」などでも可。
- ✖ 「隠蔽」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C 「画一化が進行し、皆が同じようにスマホを操作し同じような情報を交換する」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを〈因果関係〉で説明する〈果〉の条件。

① 「画一化が進行し、」の要素。(1点)

- 「一様化が進み、」「同質化が進行し、」などでも可。
- ✖ 「画一化の進行」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「皆が同じようにスマホを操作し同じような情報を交換する」の要素。(1点)

- 「誰もが似たような姿でスマホを扱い、似たような情報をやり取りする」「皆同様にスマホの操作をし、中身が同じような情報を交換する」などでも可。
- ✖ 「皆同じようにスマホを操作し情報交換」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

D 「社会環境。」〈1点〉

※B、Cをまとめる条件。

- ✖ 「社会環境」の成分が入っていないければ✖。

三 (古文) 採点基準 (40点)

問1 各3点×4＝12点

「傍線部①」「さてなんむあるとも聞こえなむ」の現代語訳。

A○1点

B○2点

(模範解答例) 法師になったという噂も きっと伝わってくるだろう。【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「法師になったという噂も」(1点)

※ 「さてなんむあるとも」の解釈

※ 指示副詞「さ」の指す内容(良少将が)法師になったという噂／出家したという話 が具体化されていない者は不可※。

○ 「良少将」の記載は不問。

B 「きっと伝わってくるだろう」(2点)

※ 「聞こえなむ」の解釈。

○ 「なむ」を強意＋推量と判断し「きっと…だろう」と判断して訳してあること。

○ 「聞こゆ」は「聞こえてくる」のような解釈でも可○。

「傍線部②」「妻子どもはさらにもいはず」の現代語訳。

A○3点

(模範解答例) 妻子などはいづにもおよばず【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「いづにもおよばず」(3点)

※ 「さらにもいはず」の解釈

○ 「言うまでもなく」のニュアンスで○。

○ 「もちろんのこと」でも可○。

▲ 「妻子どもは」は加点対象ではないが、抜けている場合は▲1点減点。

〔傍線部③〕「なほ世に経じとなむ思ふ」の現代語訳。

A〇1点 B〇2点

〔模範解答例〕 やはり 俗世間に留まっていたくないと思ひ。【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A「やはり」(1点)

※「なほ」の解釈

×「いまだ」は不可×。

B「俗世間に留まっていたくない」(2点)

※「世に経じ」の解釈。

○「出家をせずにいる・俗世間に留まる」＋「したくない」打消意志(「じ」)。
×「世に経」を「世間で生きる」のようにしているものは不可×。

〔傍線部④〕「この少将の手に見なしつ」の現代語訳。

A〇2点

B〇1点

〔模範解答例〕 この良少将の筆跡と 判断したのであった。【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A「この良少将の筆跡と」(2点)

※「この少将の手に」の解釈

○「手」は「筆跡」と訳してあること。

B「判断したのであった」(1点)

※「見なしつ」の解釈。

○「見なしつ」が「判断する・判明する」＋完了の意。完答。「見なした」のままは不可×とする。
○「わかった・気づいた・思われた」は可とする。

問2 4点

(解答) え

1

※「ちりばかりもさるけしきを見せざりけり」の現代語訳

(模範解答例) A○(前半) B○3点 A○2点
ほんの少しも 出家したいというそぶりを 見せなかった。 【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A「ほんの）少しも…見せなかった」(2点)

※「ちりばかりもく見せざりけり」の現代語訳。

✕「少しも」のような否定を強調する言葉がなくて単なる否定の場合は不可✕。

○「ちりばかりもく見せざりけり」は「まったく・けっして・少しも・全然くなかった」の意の全部否定＋過去。

B「出家したいというそぶりを」(3点)

※「さるけしきを」の現代語訳。

✕「さる」の内容を明示する指示あり。「そのような」のようにしているものは不可✕。

○「けしき」は「そぶり」「ようす」などで○。

✕「けしき」「景色は当然不可✕。

○「出家を望んでいる様子」などでも可○。

2

※「ちりばかりもさるけしきを見せざりけり」のように少将がふるまった理由。

A○2点

(模範解答例) 出家することを告げたとしたら大いに落胆するであらうし、

B○2点

自分も出家することがふき

C○1点

なくなりそうだった から。 【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A「出家することを告げたとしたら大いに落胆するであらうし」(2点)

※直後の「女も、いみじと思ふ」の内容。

○「出家したら（妻や子が）悲しみに打ちひしがれる」という内容で○。

B「自分も出家することができなくなりそうだった」(2点)

※直後の「われも、えかくなるまじき心地」の内容。

○「(そのせいで) 出家をすることができなくなってしまう」という内容に○。

▲「まじき」は不可能の意味。そうならないものは▲1点減点で△1点。

C「から」(1点)

○ 原因理由の文末表現。

✖ この箇所だけ正解では加点しない。他に得点がある場合のみ加点対象。

問4 5点

※ 「されど念じて」が誰のどのような様子か説明する。

A ○ 1点

B ○ 2点

C ○ 2点

(模範解答例)

良少将の、自分を慕い泣き続ける妻の声を聞きながらも逢いたいのを耐え忍ぶ様子。

【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「良少将の」(1点)

※ 「誰の」の説明。

○ 「少将の」でも○。

B 「自分を慕い泣き続ける妻の声を聞きながら」(2点)

※ 「どのような様子」の説明①。

✖ 愛しい妻子の泣く声を耳にしつつという内容。「妻(子)」の抜けているのは不可✖。

C 「逢いたいのを耐え忍ぶ様子」(2点)

※ 「どのような様子」の説明②。

○ 「逢いたい(のを)」+ 「我慢する」の解釈。

✖ 「逢いたい(のを)」+ 「我慢する」の両方の要素がないと不可✖。

問5 6点

※ 「みな人は花の衣になりぬなり苔のたもとよかわきだにせよ」の和歌を内容を補いつつ現代語訳する。

A ○ 2点

(模範解答例)

一周忌が過ぎ私以外の人は華やかな普段着になってしまったようだなあ。

B ○ 2点

C ○ 2点

出家した私の粗末な僧衣よ。せめて涙だけでも乾いてはくれまいか。【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「一周忌が過ぎ私以外の人は華やかな普段着になってしまったようだなあ」(2点)

※ 「みな人は花の衣になりぬなり」の現代語訳。

○ 「花の衣になりぬなり」の「花の衣」が(一周忌が経過し)普段着に戻ったというふう解釈されていれ

ば○。

- 「普段着」に戻ったのは自分以外であることが分かれれば○。
- 「普段着になる」は「普段着に着替える」でももちろん○。
- 「なりぬなり」の「なり」が動詞「成る」、「ぬ」が完了、「なり」が伝聞・推定の助動詞であることがそれぞれ解釈に生かされていれば○。

- ▲ 「(てしまつ)た」(完了)、「ようだ」(伝聞推定)のうちどちらかのニュアンスが欠けてている場合、▲1点減点。

B 「出家した私の粗末な僧衣よ。」(2点)

※ 「苔のたもとよ」の現代語訳。

- 「苔のたもと」が良少将の着ている僧衣であることがわかれば○。
- ✖ 「苔のたもと」のママは不可✖。
- ✖ 「喪服」などとしているものは不可✖。
- ✖ 「粗末」のような「華やか」の対比となる言葉が無い場合不可✖。

C 「せめて涙だけでも乾いてはくれまいか。」(2点)

※ 「かわきだにせよ」の現代語訳

- 「だに」が「せめてくだけでも」という希望の最小の用法で解釈されていれば○。
- ✖ 「だに」を「すら」「さえ」と訳している場合は不可✖。
- ✖ 乾く対象として「涙」が述べられていない場合は不可✖。
- ▲ 「せよ」が命令形の解釈になっていない場合、▲1点減点

問6 3点

(4)

〔四〕(漢文) 採点基準 (合計 40点)

問1 各6点

※傍線部①「春夏起役」を晏子が諫めた理由。

A○3点

B○3点

(模範解答) 農繁期に 農民から労働の時間を奪うから。【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A「農繁期に」(3点)

○「農繁期」は、「農業にとって大切な時期」「農作業が大変な時期」「種まきの季節」などで○。

▼ポイントは「春夏⇨農繁期(種まきとか田植えをする農民にとって忙しい時期)」とわかっているかどうか。農繁期に民を楼台の造営に動員してはいけないと晏子は諫めている。「秋冬」であれば、「収穫のあとは」農閑期」なので、民を労役に動員しても、そこまで大きな問題にはならない。

B「農民から労働の時間を奪うから」(3点)

○「農民から労働の時間を奪うから」は、「農作業の妨害をすることになるから」「農民が種まきできなくなるから」「農民が農作業できないから」などで○。

▼ポイントは「農作業ができないから」とわかっているかどうか。

問2 4点×2＝8点

② 4点

※傍線部②「相賢者国治」を現代語訳する。

A○2点

B○2点

(模範解答) 宰相が賢明な場合、 国は治まり、【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A「宰相が賢明な場合」(2点)

※「相賢者(相の賢なる者)」の現代語訳。

(1)「相」について、

○「相」を、「宰相」「首相」「総理大臣」などと解釈していること。

△「相」のままでも、「宰相」の意味で使っているとわかれば、△1点。

✖「相」を、「互いに」や「宰相」があっても、「君と宰相がどもに」などとしているものは不可✖。

(2)「賢者」について、

○「賢者」を、「賢明な場合」「賢人だと」「優れていれば」などと解釈していること。

- ✖ 「賢明な宰相は」「宰相が賢者であり」などは不可✖。
- 「…場合」「…だと」「…れば」といった仮定・条件の要素が必須。

B 「国は治まり」(2点)

- ※ 「国治(国治まり)」の現代語訳。「国」が主語、「治まる」が述語で自動詞。
- 「国が治まり」を、「国は安泰であり」「国家が落ち着き」「国の秩序は保たれ」などと解釈できていること。
- ✖ 「国を治める」「国家を統治する」などは文構造を誤解しているので不可。
- 「治」については「治まる」の訳として適切であること。

③ 4点

※傍線部③ 「子其息矣」を現代語訳する。

- A ○ 1点
- B ○ 3点

(模範解答) そなたは もう(言うのを)やめよ。 【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「そなたは」(1点)

- ※ 「子」の現代語訳。
- 「そなた」は、「あなた」などでも○。

B 「もう(言うのを)やめよ」(3点)

- ※ 「其息矣(其れ息めよ)」の現代語訳。「其れ」は副詞で「もう」。指示語「それ」ではない。
- 「もうやめよ」は、「もうやめなさい」などと解釈できていれば○。
- 「息」については「息めよ」の訳として適切であれば○。
- 具体的に「もう言うのをやめよ」でもちろん○。「言うのを」は、あってもなくても可。
- 「其れ(もう)」については、訳出がなくとも可○。
- ▲ ただし、「それを(やめよ)」など、指示語としてしているなど、明らかに誤訳している場合は▲ 1点減点。

問3 5点×2＝10点

④ 5点

※傍線部④ 「不敢盤游于田」を、すべてひらがなで書き下し文に改める。

(解答) あへず そ て あへず に あ は ず す を あ へ ず す 【5点】

A ○ 2点

B ○ 2点

C ○ 1点

☆各加点要素の加点の条件

※書き下し文なので、解答はA↓B↓Cの順になっていなければ、全体×0点

A「あゝ(え)て」(2点)
○「あゝて」「あえて」「のどちぢぢでも可。

B「でんた」(2点)
○「でんに」は、「たに」「でも可○。

C「ほんい(ゆ)うせず」(1点)
○「ほんいうせず」「でも」「ほんゆうせず」のどちぢぢでも可○。

⑥ 5点

※傍線部⑥「君不聴臣、臣将逝矣。」を、すべてひらがなで書き下し文に改める。

AO1点 BO1点 CO3点
(解答) きみしんをきか ずんば しんまさにゆかんとす (と) 【5点】

☆各加点要素の加点の条件

※書き下し文なので、解答はA↓B↓Cの順になっていなければ、全体×0点

A「きみしんをきか」(1点)

B「ずんば」(1点)

○「ずんば」は、「ぎれば」「でも可○。

C「しんまさにゆかんとす」(と) (3点)

○末尾の「と」はあってもなくても可○。

▲「…ゆかんとす」「…いかんとす」などは、誤字扱いで▲1点減点。

↓例えば、「しんまさにいかんとす」なら▲1点減点×2 || 2点減点。

問4 4点+5点 || 9点

(1) 4点

※「将危社稷而為諸侯笑」に返り点を付ける。

(解答) 将下危二社稷一而為中諸侯笑上 【4点】

(2) 5点

※「将危社稷而為諸侯笑」をわかりやすく現代語訳する。

A ○2点

B ○2点

C ○1点

(模範解答) 国家を危うくして 諸侯に嘲笑される ことでしよう。【5点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「国家を危うくして」(2点)

※「将危社稷而(将に社稷を危ふくして)」の現代語訳

○「社稷」を「国家」「国」などと解釈し、「国家を危うくして」のような訳であること。

B 「諸侯に嘲笑される」(2点)

※「為諸侯笑(諸侯の笑ひと為る)」の現代語訳

○「諸侯に嘲笑される」は「諸侯の笑い者となる」「諸侯に馬鹿にされる」などでも○。

C 「こと

※「将(将にくんとす)」の現代語訳

○「でしよう」「だろう」など、「いま陛下が改めなければ」と呼応した形になっていること。

※「今にも…しそうだ」「…するところだ」「…しようとしている」などは不可※。

問5 各1×4＝4点

a かつ b いくばくもなし c ゆゑ(え)に

d あらためずんば／あらためざれば

問6 1点×3＝3点

(1) 1点×3＝3点

(ア) (エ) (ケ)

☆各加点要素の加点の条件

○正解一つにつき1点を与える。

▲不正解一つにつき1点減点する。

※ () の有無は問わない。